

令和七年四月十二日(土)・十三日(日)

午前七時三十分(本堂・蓮如堂)・法話

午前十時・同行勤行(蓮如堂)・説教二座(蓮如堂)

午後一時・永代経勤行(本堂)・説教二座(蓮如堂)

本坊永代経法要

演題 「阿弥陀如来の大会座に」

（ご）開山親鸞さまのみ教えが私に届くまで

布教 寿願寺 西寺 正師



本徳寺永代経法要

4月12日(土曜)・13日(日曜)

コロナの危機が有ろうが無かるうが、梅がつぼみを膨らませ、やがて桜が咲き誇る季節がやってきます。

「花のいのちは短くて、苦しきことのみ多かりき」と歌った歌人がいました。苦しみは、一時忘れることがあっても、生きる限り繰返されます。迷いの生を生きている「いのち」の本質を言い当てているよつな気がします。

私達は、過去から未来へ、先祖から子孫へと繋がる「いのち」の潮流に気付き、その刹那に生きる「私」の存在に息をのむことがあります。娑婆の苦楽に浮沈する「私」は、この「いのち」の圧倒的な暴流の裡で、御しがたい「心」と老・病・死の「身」に翻弄されつつける過酷な存在です。この事実を誤魔化すことなく自分の存在に正面から向かい合うきつかけを仏縁といえます。

仏縁とは、仏の「智慧」と「慈悲」によって煩惱の水が溶けて菩提の水になるように、私の「いのち」の源流を見抜き、何が問題であるかに気付いて往く不思議を自覚できるといふことです。

この「真実」に気づき、わが子わが孫は勿論一人でも多くの縁ある人に、伝えていってほしい…その思いが念仏者の行動となり、浄土真宗の文化をかたち作って来ました。

その一つに永代経法要があります。本徳寺に何がしかの縁ある皆様に、左記、永代経法要のご案内を申し上げます。

四月十一日(土曜日) 十三日(日曜日)

午前七時半 晨朝勤行(本堂・蓮如堂) 法話

午前十時 門徒勤行(蓮如堂) 引き続き説教

午後一時 永代経法要(本堂) 引き続き説教

導師 大谷昭仁

布教 西寺 正

永代経法要日程表

4月12日(土)・13日(日)

1	7時半より	晨朝勤行	本堂・蓮如堂
2	引き続き	法話	蓮如堂
3	10時より	同行勤行	蓮如堂
4	引き続き	説経	蓮如堂
5	お昼休憩	昼食	庫裏
6	1時より	永代経勤行	本堂
7	引き続き	説経	蓮如堂

導師 本徳寺住職 大谷昭仁師
布教 寿願寺住職 西寺 正師

春彼岸讚佛会のご案内

- 一、春彼岸讚仏会勤行は午後一時から本堂で嚴修されます。
- 一、同行の勤行は蓮如堂で午前十時からあります。
- 一、お説教は十九日から蓮如堂で勤行の後必ず行われます。
布教使 福岡・平和寺 成照 星師
- 一、個別のお経づけは寺務所でお受けいたします。
午前中は九時から十一時半 午後は二時から四時
- 一、ご懇志は本堂寄進所または寺務所でお受けいたします。
- 一、昼食は食券を寺務所でお求め下さい。

4月と5月の行事ご案内

四月十二日(土)・十三日(日)、本坊永代経法要勤修
五月十一日(日)、蓮如上人並びに御歴代年回法要勤修

永代経法要日程

四月十二日
午前七時半 晨朝勤行 法話
午前十時 同行お勤め 説経二席
午後一時 永代経勤行 説経二席
四月十三日
午前七時半 晨朝勤行 法話
午前七時半 同行お勤め 説経二席
午後一時 永代経勤行 説経二席

布教使 寿願寺 西寺正師

蓮如上人並びに御歴代年回法要日程

五月十一日
午前七時半 日没礼讚
午前十時 無量寿経作法
午後一時 蓮如忌法要
午後二時 説教一席
説教二席

布教使 慈眼寺 松田義量師

お待ちしております

亀山御坊永代経法要のご案内

人はひとり生まれひとり去っていきます。その間多くの出会いと別れを体験します。この娑婆では別れない出会いはありません。親子も夫婦も兄弟も知友も必ず死別をもつて終わります。このとき、残された者は断ちがたい恩愛の情にさらされて、「いのち」を正面から問わざるを得ません。この仏縁を通して人は自らが何者であるかを知るものです。

たしかに、「さよなら」だけが人生の見方を決定づけるものなのです。「さよなら」は、今まで命を生きながら命に無知であった私が、共に生きた命との別れを通して始めて本当の命に触れることなのです。

仏様はこの命の本性に向かつて思案をし、考えを巡らし、願いをかけ、合掌しておられることを知ったとき、愕然とせざるを得ません。ここから生老病死を貫く命の全貌を明らかにするお念仏の世界がはじまります。

「さよなら」とは仏縁です。私が仏願を抛り所にした新しい自分に巡り逢うことです。このような命の依つて来たる由縁と行く末を自覚した自立的な生き方を菩提の道といえます。

永代経法要の源泉を探ると、この菩提の道を、わが子わが孫は勿論、一人でも多く方々に気付いてほしい、という先祖先達の永代の思いに突き当たります。

下記の通り永代経法要を修行いたします。ご参集下さい。ご案内申し上げます。

合掌

亀山御坊永代経法要日程

四月十二日(土)・十三日(日)

午前七時半 晨朝勤行 本堂・蓮如堂
午後一時 永代経法要 本堂

導師 本徳寺 大谷昭仁師
布教 寿願寺 西寺 正師

お説経は、お勤めの後、蓮如堂で聴聞します。

蓮如忌法要のご案内

四月初旬、境内のサクラが満開になり、散っていきます。花命の短さを直視して永代経法要が勤まります。ツツジが咲く頃、五月十一日には蓮如上人のご法要です。境内に梅檀の香りが漂う頃、この頃にはコロナへの過敏な反応も落ち着きを見せているかも知れません。是非とも仏縁にお会いください。

個別納骨壇利用のご案内

亀山本坊で自己管理型の納骨壇の利用が出来ます。ご相談の方は左記お問合わせ下さい。

問合先・本徳寺寺務所・電話(235)0242

亀山御坊永代経法要のご案内

本徳寺では下記の通り、永代経法要が勤められます。「永代経」という名のお経が別にあるわけではありません。仏の願いに目覚めた人が尊いみ教と仏のお徳を子々孫々に伝えるために勤める法要です。

死別を縁に人の命のありようで行く末を仏の願いの中に見出した人が、故人に代わって布施行をつくし、仏徳賛嘆の行に自参して故人との関係を成就させる浄土真宗独特の営みです。さらに、この行事を通してより深く仏法を聞く機会に出会うことが肝心です。

礼讃文にこうあります。「人身受け難し、今既に受く。仏法聞きがたし、今已に聞く。この見今生に向かつて度せずんば、さらにいずれの生に向かつてか、この身を度せん」。人に生まれることはまれなる縁であり、仏法を聞き仏になることはさらに難しいことです。「棚からぼた餅」ですら口を開けなければ餅は口には入りません。仏法を聞くことも同様です。

このように永代経法要はわが子わが孫は勿論、一人でも多く方々に気付いてほしい、という仏縁のあつた先達の永代の思いに支えられているのです。

下記の通り永代経法要を修行いたしますので謹んでご案内申し上げます。

合掌

亀山御坊永代経法要日程

四月十二日（土）・十三日（日）

午前七時半 晨朝勤行 本堂・蓮如堂
午後一時 永代経法要 本堂

導師 本徳寺 大谷昭仁師
布教 寿願寺 西寺 正師

お説経は、お勤めの後、蓮如堂で聴聞します。

蓮如忌法要のご案内

四月初旬、境内のサクラが満開になり、散つていきます。花命の短さを直視して永代経法要が勤まります。ツツジが咲く頃、五月十一日には蓮如上人のご法要です。境内に梅檀の香りが漂う頃、この頃にはコロナへの過敏な反応も落ち着きを見せているかも知れません。是非とも仏縁にお合いください。

個別納骨壇利用のご案内

亀山本坊で自己管理型の納骨壇の利用が出来ます。ご相談の方は左記お問合わせ下さい。

問合先・本徳寺寺務所・電話（235）0242

永代祠堂経に付かれた方にご案内

四月は境内の桜が満開です。桜の時期になると若かりし時の苦い思い出が去来します。

当時、仲間と桜を魚に酒宴に興じていた時、いつもお参りになる老いたご門徒が「桜がなぜ綺麗か分かる？」と問いかけてきました。虚を突かれ、返す言葉もなく沈黙していると、その方はこう言うのです。「桜は精一杯努力して美しくいはなを咲かせて人を喜ばす。そして、その成果を一瞬のうちに散らせて平然としている。その姿が美しいのだ」と言い放った。

桜にはそんな意思などないが、それを愛でる我々はいろいろな意味を気付かせてくれるのだと初めて知った。おそらく老婆は咲き誇り散つていく姿に自身の命の真意を感じ取ったのだろう。

娑婆には幾多の出会いがあります。しかし、別れのない出会いは一つもありません。あるとすれば仏との出会いです。娑婆での別れを縁に、そこからより深い命の営みに出会うのです。

「さよなら」とは仏縁です。私が仏願を抛り所にした新しい自分に巡り逢うことです。このような命の依って来たる由縁と行く末を自覚した自立的な生き方を菩提の道といえます。

永代経法要の営みは、この真実を一人でも多くの方々に気付いてほしい、という往生した先達の永代の思いに出会うことです。下記ご案内いたします。

亀山御坊永代経法要日程

四月十二日(土)・十三日(日)

午前七時半 晨朝勤行 本堂・蓮如堂
午後一時 永代経法要 本堂

導師 本徳寺 大谷昭仁師
布教 寿願寺 西寺 正師

お説経は、お勤めの後、蓮如堂で聴聞します。

蓮如忌法要のご案内

四月初旬、境内のサクラが満開になり、散つていきます。花命の短さを直視して永代経法要が勤まります。ツツジが咲く頃、**五月十一日**には**蓮如上人のご法要**です。境内に梅檀の香りが漂う頃、この頃にはコロナへの過敏な反応も落ち着きを見せているかも知れません。是非とも仏縁にお合いください。

個別納骨壇利用のご案内

亀山本坊で自己管理型の納骨壇の利用が出来ます。ご相談の方は左記お問合わせ下さい。

問合先・本徳寺事務所・電話(235)0242

三月十九日から二十一日　お説教は毎座・蓮如堂で行われます。

午前七時半・晨朝勤行（本堂・蓮如堂）・法話

午前十時・同行勤行（蓮如堂）・説教二座（蓮如堂）

午後一時・彼岸会勤行（本堂）・説教二座（蓮如堂）

春彼岸讃仏会

演題 往生極楽の道

福岡平和寺 成照星師



亀山本徳寺

春 彼岸讃仏会

3月19日から21日の3日間勤修

20日の彼岸勤行に際し午後12時45分から本徳寺コーラスの合唱と毎日読誦中に讃佛偈の写経を修業します。

19日・20日・21日の行事日程

午前7時半	晨朝勤行本堂・蓮如堂・法話
午前10時	門徒勤行 蓮如堂・法話
午後1時	彼岸会勤行本堂・説教

人生は一命を引っさげての一人旅
どこから来てどこへ行くのか、生老病死
を貫く大いなる命の有り様を仏様の信心
の智慧によって明らかにさせていただき
ましょう。

布教 福岡・平和寺 成照星師

梅と太鼓楼

文化財太鼓楼は平成12年春に完成しました。

亀山本徳寺

春の彼岸讚仏会

「いのち」を生きながら「いのち」を知らない私
仏の智慧に照らされて
明らかにになる私の本性

讚仏会のお勤めは大経讚仏偈を3つに区切って
独特の音律で勤められます。

古来、本山本願寺で依用されてきました。

彼岸讚仏会は3月19日・20日・21日
の3日間勤まります

午前7時半 晨朝勤行 本堂・蓮如堂

午前10時 同行勤行 蓮如堂

午後1時 彼岸会勤行 本堂

昨年よりコロナで自粛していた行事を修業します。

中日午後1時の彼岸法要ではコーラス讃歌が奉納され、三日間を通して読経中の写経奉納が修業されます。

布教 福岡・平和寺

成照星師

「浄土のさとり」とは、仏様の功德によって、自らの
「いのち」の在り様と行く末を明らかにすることです。

到彼岸に想う

大谷昭仁

暑さ寒さも彼岸まで。春の彼岸は、冬から夏に向けて四季の移り変わりを明確に印象づける日本特有の風物詩です。彼岸にはお墓参りをして先祖に思いを馳せ、仏供養をおこなう宗教行事となつていますが、インドや中国にはない仏教行事が、いつ頃に何故、日本に定着したのか皆目分らないそうです。

憶測するに、日本における明確な四季の循環、稲作を中心とした農耕サイクルとの関係などが考えられますが、これといった決め手はありません。しかし、彼岸行事の記載はふるく、『崇道天皇の奉為に諸国分寺の僧をして春秋二仲月別七日、金剛般若経を讀ましむ』とあり、古代にはすでに彼岸が公式の行事とされ、また、源氏物語をはじめ平安初期の諸文献にも散見されるので、このころには民間でも定着していたことが分かります。

「彼岸」は文字通り「彼の岸」ということで、あちら岸です。したがって、今いるところは此岸、つまり、こちら岸。「彼岸」は、こちらからあちらへ川や海を渡るイメージをもつています。ですから、「彼岸」は正確には「到彼岸」と言つて、こちら岸からあちら岸に渡ることを意味しています。古来の日本人は人が死ぬと単純にあの世へ行くと感じていました。あの世は山や海であり天上や地下であつたりしますが、とにかく、死んだ先祖が行く場であり、そこにとどまり、また帰つてくると言う古代の他界観がそこにはあります。このような素朴な観念をベースに、秋の農繁期を迎え、先祖のお蔭と、大地や太陽への感謝が彼岸の行事を形作つていったのかも知れません。毎年繰返される農耕信仰と先祖信仰を背景に、農耕の休閑期と時候の息吹とがあいまつて、日本の民衆に古くから広まつていったと考えられます。しかし、民族文化の底辺を流れる素朴な「あ

の世」観は、時代の推移とともに、かたちの解りから内面の実相に注意が向けられていきます。ここに仏教が大きく関わり合いを持つたことは言うまでもありません。「此岸から彼岸へ」を「娑婆から浄土へ」に転換することによつて、民族の生死観におおきな目覚めをもたらしました。つまり行つたり来たりするこの世やあの世は所詮この世の延長線にあり迷いの輪廻界でしかないのでは、と。娑婆世界から悟りの世界への解脱をまづ人が育つてきたのです。この時に、日本人は「ヒト」から「人」になつたのではないのでしょうか。もちろん、一足飛びに、人間観が深まつたわけ



本徳寺大広間天井画

けではありません。当初は、あの世を極楽浄土とみて、春と秋の彼岸に仏教行事をとり入れて、次第に、人間に目覚めていったに違い有りません。初期の信仰で有名なのは、和国の教主、聖徳太子の発願によつてたてられたといわれている四天王寺。西門外所の西方浄土信仰があります。太陽の真西に沈む方向に遠く浄土を観想するこの信仰は、太子信仰と結びつけられ、古代の浄土信仰を今に伝えていきます。「四天王寺御手印縁起」の虚偽性にも関わらず、今なお、彼岸には大勢の人が詰めかけ、先祖の供養や太陽崇拜

のなごりを見ることができません。決定的な「ヒト」から「人」への変革は中世におこりました。中国浄土教のリーダー・善導大師の「二河白道」はそのことを端的に示しています。荒れ狂う海と燃えさかる炎火の中にしつかりと架けられた此岸から彼岸に到る一筋の白い道のイメージは、古代の他界思想では手に負えずなくなつて、日本人の生死観を大きく飛躍させました。「私」と云う個人の存在に気づいた者が、釈迦・弥陀の教を唯一の頼りとして、ひとり静かに進み行くものです。二河の象徴である貪りと怒りを乗り越え、初めて成就する歓喜と悟りの境位が浄土です。善導は、この浄土へのイメージ・ジトリングに『観無量寿経』の日想観の行法を示して、『冬夏の両時を取らず唯春秋の二際を取る、その日正東より出て直西に没す阿弥陀を日没処にあたる』とその時所を述べました。このように西方極楽浄土を観想する上で、「彼岸」はあらたな意味を持つて登場することになったのです。

何故に西方浄土なのか。時空間の観念でしか位置を認識できない人間の知性が、時空間の観念にとらわれない浄土を見ることはあり得ません。しかし、浄土への往相がこの身に実現されるためには明確で寸分狂いのないイメージを必要とします。その意味で、浄土を目指す凡愚身において西と定められたことはとりわけ重要なことなのです。この方便の浄土は、信心を決定し此岸から彼岸に渡る生身の凡夫にとつて欠かせない方位なのです。

亀山本徳寺では三月十九日から二十一日まで五日間、お彼岸のお勤めを執行します。「世界は燃えている」と直感されたのは積尊です。此岸の人は御しがたい欲求と耐え難い日常を抱えて底知れぬ不安と飽くなき夢から一刻も逃れることはできません。此岸から彼岸に、迷いの世から目覚めの世界へ、仏様に、終生、問題とされ、目覚めてくれと願われている「私」と向かいあつた時、浄土真宗の「法」の世界が開かれます。どうぞ、お誘い合わせの上彼岸讚仏会にご参集下さい。

本徳寺彼岸会にお参り下さい

春彼岸讚佛会日程

龜山本徳寺

2025年3月

	19日(水)	20日(木) 中日	21日(金)
7:30	晨朝勤行 如常・和讃繰読 於 本堂 於 蓮如堂 住職法話 於 蓮如堂	晨朝勤行 如常・和讃繰読 於 本堂 於 蓮如堂 住職法話 於 蓮如堂	晨朝勤行 如常・和讃繰読 於 本堂 於 蓮如堂 住職法話 於 蓮如堂
10:00	同行勤行 於 蓮如堂	同行勤行 於 蓮如堂	同行勤行 於 蓮如堂
10:30	説教二座 於 蓮如堂 昼食・庫裡	説教二座 於 蓮如堂 昼食・庫裡	説教二座 於 蓮如堂 昼食・庫裡
12:00	供飯	供飯	供飯
12:45		仏讃歌奉唱 御坊コーラス部	
13:00	彼岸会勤行 写経 於 本堂	彼岸会勤行 写経 於 本堂	彼岸会勤行 写経 於 本堂
	住職挨拶 於 本堂	御消息拝読 於 本堂	住職挨拶 於 本堂
14:00	説教二座 於 蓮如堂	説教二座 於 蓮如堂	説教二座 於 蓮如堂

導師・法話 本徳寺住職 布教 福岡平和寺 成照星師

到彼岸に想う命の有様とその行末

「お彼岸」は、古代から今に続く日本特有の仏事です。お墓参りをして先祖の生死に思いを馳せ、自らのいのちの本性を自覚する営みです。しかし、その真意を知る者ははなはだ少ないようです。

「彼岸」とは正しくは「到彼岸」、つまり此の岸を離れ彼の岸に「私」が到ると言うことです。

娑婆の定見では、この世からあの世である。ご先祖様はあつちに行つたけど私はまだこつちにいる。いずれは私も逝くけどまだまだ早い。いつまでもこの世に未練がある。コロナ禍中で唯一学んだこと、人は苦楽に翻弄され「死にとどまない金欲しい」という迷いの欲海から出られない。仏の教えに聴くと、此岸は欲界と言う娑婆濁世、彼岸は仏が薦める浄土の悟りです。此岸と彼岸の間には途方もなく越えがたい「我執」という壁があります。仏教はこの我執の壁を問題にします。

真宗では先に逝つた者を先達と言います。自分よりも先に行つたからだ。人は仲間と言う社会を作り、互いの様子を伺いながら自らの行動を決して行く。借物の身体が滅尽のとき、その心行を先達に聞きたい。しかし、先達はもういない。だから、仏に聞くしかないと言うことです。これが彼岸の仏事を勤める者の心構えです。

今年も春の彼岸会が勤まる。先達の供養を縁に、私のいのちのありようとその行く末を仏さまの智慧を載いて訪ねてみようと思えます。

春彼岸会の午前中行事再開

コロナの期間中、中日にはコーラスの讃歌が奉納され、三日とも法要中に写経が行実されます。おとぎの昼食（六百元）をご用意します。（なくなり次第終了）

本徳寺春彼岸讚仏会日程

三月十九日・二十日・二十一日

午前七時半 晨朝勤行 本堂・蓮如堂・法話

午前十時 門徒勤行 蓮如堂・続き説教

午後一時 春彼岸法要 本堂・続き蓮如説教

布教 福岡・平和寺 成照星師

お説経は、法要・お勤め・勤行の後、蓮如堂於

●本坊永代経法要 四月十二日・十三日

●本坊蓮如忌法要 五月十一日

いずれも午前の行事とおとぎの昼食が用意されます。

個別納骨壇利用のご案内

亀山本坊で自己管理型の納骨壇の利用が出来ます。ご希望の方は左お問合わせ下さい。

問合先・本徳寺事務所・電話（235）0242